

3	2	4	29	2	泥	棒
---	---	---	----	---	---	---

神事に関するものには「めでたさ」、「をかしさ」、「なまめかしさ」は感ずるが、「あはれ」は感じなかつた故だといえる様である。

4. 神佛、自然、人事に関するもの全体を通して、その観察描写をみるに、

枕草子は、一つの対象を写すにしても極めて精細に、具体的に観察し、宮廷生活圏内ではあるがかなり広範囲にわたつて観察描写している。しかしその観察は部分的、外面的なものを中心とし、思考が単純である。

又細かいもの、小さいものに美を見出す点、徒然草と特に異なる。徒然草は、枕草子よりおまかで、抽象的であるがその物の内面性にまで深く観察し、人に感じ、考えさせる複雑なものが流れている。枕草子より情緒豊かな面もあり、静的である。特に異なる点は、古典的趣味—平安朝への憧憬—を根底とする観察描写や評論、及び兼好の人生観である無常思想がその根底に流れていることといえよう。

この様な枕草子、徒然草の観察態度の相違は性格的にも、生活環境的にも、時代的にも、性別的にも影響されるものなのであろう。

〔三十二年度卒業〕

単なる行事、或は古歌との聯想による故 乃し

向性（性格）と家庭環境との関連

吉 田 ヤ ス

向性というのは本来、人格の基本的エネルギーの方向をさすもので外向性・内向性の二つの面がみられる。外向性とは外に向つて発散されやすいもの、内向性とは心の中に閉じこもろうとするものである。従つて外向性の極端なものは気分が外に発散されるから、向性が明るく細かいことをよく／＼しない。その代り考えがだまかで確実でない欠点がある。内向性の極端なものは、すべて自分の心の中に問題を持ちこむので用心深く、石橋をたゞいて渡る確実な性格である。がその反面小さい事にもこだわり、陰気度人を疑いやしい面がある。

これらの向性の現れ方はいろいろで最も重要なものとして、社会的向性。思考的向性。失敗感（劣等感）。神経質。感情変易性という兒童の随意的傾向の支柱となる五つの向性を定め、これから五つの偏差値を求め兒童生徒の向性面を表わし人格を理解しようとするものである。

社会的向性とは実際の社会生活にそれがどう現れるかをさす。

思考的向性とは考えの上での向性は必ずしも行動として

現れないかもしれない。

失敗感又は劣等感とは自分が他に比べて劣っているか役に立たないかという意識である。

神経質傾向は内向性の特徴である。

感情変易性は感情が変わりやすい事が外向性の特徴である。

これから五つの向性を基にして児童生徒の個々の向性をみ、一応理解したら、更に家庭環境を知る事が指導者にとつては有役である。というのは人間の性格は或る程度家庭環境によつて左右されるものであり、教育者として、児童生徒の生活、発達に異常性をもつたり、問題、行動を起したり望ましくない傾向を現わす児童があるとすれば、その寄つて来た原因、条件を追求する為、又、後の指導治療を行う為、それら児童のいるところの環境を知つておく事が必要である、そしてその環境も種々さまざまである。

イ、環境の範囲から

家庭環境、学校環境、社会環境、

ロ、環境の性質から

自然的環境、社会的環境、文化的環境、

ハ、環境の働きから

物理的環境、心理的環境、

これらの様に別けられ、いずれも教育環境測定に関連してくる。

教育環境というものは教育の対象としての児童生徒の生活や発達に関係を持ちいろいろな環境のうちでも家庭環境が最も大きな役割をなす。家庭環境として子供に影響するものはいろいろあるが、大体

イ、静的環境、(主として物的環境)

ロ、動的環境、(主として心理的環境)

に大別される。

人を支配するものには「物」と「心」との二面がある。児童の家庭環境が児童がどんな勉強や娯楽の施設用具を持つかが児童の生活に大きな影響を与えると共に周囲の人々がいかなる生活態度をもち、どんなに児童を取扱うかが重要である、この二面が重なり合つて児童の家庭環境を作つている。この様に家庭環境は児童生徒のパーソナリティ形成に重要な役割をはたしているのである。

このように診断性向性検査、家庭環境診断テストを併せ行つたのは、これまでのべた様に、二つが非常に関連性があり且つ児童生徒を理解する上にも重要なことであるからである。(偏差値の表、グラフは紙面の都合で省略致します)

そしてこの二つの調査を行つて考えられる事は、家庭環境が向性に著るしく影響していることである。家庭的にめぐまれている、家庭の雰囲気の高い児童は向性も両向性、やや外向性を示し、家庭的にめぐまれない児童(片親

これらの様に別けられ、いずれも教育環境測定に関連してくる。

の場合、両親がいても経済的に苦しい場合）はやや内向性、内向性を示している者が多い。つまり人間の先天的な素も環境によつて、或る程度、いやそれ以上に左右されるものゝようである。更にこれを学習面からみてもこの二つが関連性を有することがわかる。
〔三十二年度卒業〕

吉野川の童女

一 瀬 幸 子

古事記には雄略天皇の御事蹟を語る幾多の物語があるが、その多くは天皇の温い御性格を示す求婚説話である。それらの説話の中の「吉野川の童女」の歌物語をとりあげて上代歌謡の本質にふれてみたい。

記の全文を引用すると

天皇、吉野の宮に行幸でよしし時、吉野川の浜に童女有りき。其の形容美麗しかりき。故、是の童女と婚ひして、宮に還り坐しき。後更に亦吉野に幸行でましし時、其の童女の遇ひし所に留まりまして、其処に大御吳床を立てて、其の御吳床に坐して、御琴を弾きて、其の嬢子に舞為しめたまひき。爾に其の嬢子のよく舞へるに因りて、御歌を作

ぐまれている、家庭の雰囲気度の高い児童は、同性も同性、やや外向性を示し、家庭的にめぐまれない児童（片親

みたまひき。其の歌に曰ひしく、
吳床座の神の御手もち弾く琴に舞する女 常世にもがも
といひき。（日本古典文学大系）

この歌について宣長は「こゝは此ノ嬢子の形姿と舞とを感賞賜ひてあかず所思看て如此ながら常世に何時までも舞ひてあれかしと願ひ給ふなり」（古事記伝）ととき、土橋寛氏は「独立歌謡として神前で舞う巫女の姿を讃めた歌と見る方が自然である。神楽歌か。」（古代歌謡集）と解していられる。

ところで本朝月令をみると、天武天皇にも吉野の宮で女子の舞を見られた説話があり、それは五節の舞の起源とされて居り、次の歌詞をにかけている。「少女ども少女さびすも唐玉を袂にまきて少女さびすも」又、萬葉集卷五には山上憶良の歌として「少女らが少女さびすと唐玉を手本にまかし同輩兒らと手拂はりて遊びけむ時の盛を止みかね云々」（八〇四）とある。月令の歌と憶良の作と何れが先であるかについては説があるが、（南京遺響には月令を先とし契沖は憶良のを先としている）これについて守部は「五節舞を云る文こそ、いみじき漢意の潤色にして信がたけれ」（稜威言別）ととき、次田潤氏も「吉野山の仙女の物語は古事記の右の物語から起つたものであつて、月令に掲げた伝説は、支那神仙伝説の影響を著しく受けている」（古事記新講）と解していられる。宣長は古事記の歌謡と